

## 本学教授新刊紹介

カンドウ著「世界うらおもて」

本学開校以来近代思想批判を識じて来られたカンドウ師は本年九月二十八日急性十二指腸カイヨウで急逝された。本書は師が残された最後の著で、朝日新聞に寄稿された随想五十四篇と、ラジオ講演十篇とを収めた朝日コラム・シリーズの一つ。「常識に訴えるちよつとしたヒントによる思索を好む未知の友人たちに捧げ」られている。師の豊富な体験、古今東西に互る広い知識が、近代のサンスとエスプリ、ウモアとが、根底に流れる未知の友人たちへの愛と、カトリシズムの上に美事な諧調を奏でている。肩のこらぬ、しかも深い真理を語る随想集として、現代知識人の好伴侶となろう(昭和三十年八月、朝日新聞社刊。B6二四三頁、一八〇円)

海老沢有道校註「ろざりよの観念」

一六〇七年長崎イエズス会学院で出版されたローマ字本「スピリツアル修行」は数小著の合冊でキリシタン版中最大の書であるが、明治初期ブティジャン日本司教がマニラより得て長崎に持帰り、分冊鑿刻を企てたが、現存するもの僅か「後婆通志与」(明治五年刊)に過ぎず、キリシタン版が続々複製される中にあつてなお取り残されていることなどについて、すでに早く校註者の研

究があるが、このたび教授は鑿刻完成を企てられ、その第一巻として原書の一部を初めて刊行されたことは、ブティジャン司教の遺志をつぐ壮舉であるばかりでなく、本書の宗教書として、また国語資料としてもつ高い意義からも誠に慶賀すべきである。

キリシタン版が国語研究資料として持つ価値は今更いまでもないが、この鑿字本は一般の信者を読者として期待し読み易いように註解を与えつつ、一方において原本の示すローマ字を忠実に鑿字しており、国語学に寄与するところ少なくないであらうし、従来内容的には知られなかつたキリシタン文学書として、あらためて文学史上に見直される価値がある。しかし本書は何よりも信心書であり、聖母マリアの十五文義の解説黙想書である。

各文義ごとにメヂタサン(観想)の箇条が掲げられ、さらにその各項が美しい文章で解説され、黙想を助け、オラシヨ(祈禱)で結んでおり、現在に至るまで日本語で書かれたロザリヨ観想書として内容的にも文学的にも最もすぐれたものであると云えよう。原書各文義ごとにある銅版図が欠けていることは惜しい。

(昭和三十年十二月、ナツメ社刊。A6判一二九頁。一八〇円)

伊木寿一著「古文書学」

古文書学者として伊木博士の令名はここに紹介するまでもあるまい。従来の古文書学関係の書は数冊中に収められるか、単行本としては尤大、あるいは極めて高価なものであり、初心者に不便であつたが、この度、博士は慶応義塾大学通信講座のために手際

よく、かつ適切な諸例を示しつつ、日本古文書学の全貌を示した本書を公けにされた。通信教材であるだけに入門書として誰にも理解出来るように配慮が行届いており、日本史学を志す者に基礎的知見を与えるものとして必備の書である。(昭和三十年六月、重版、慶応通信。A五 一六八頁、二五〇円。)

助野健太郎著「ともしびは消えず」

——キリシタンの三百年——

キリシタン史に関する研究は、最近ますます精緻を極め、それだけに一般人にとつては難法となり、あるいは特殊な研究のためとつつきが悪いうらみがある。一方、通俗的なキリシタン史と称するものも従来決して少なくないが、それらには多くの誤謬があり、近時の読者には勧め難いものがあつた。

このたび本学助野講師が、この欠陥を補いキリシタン史の正しい姿を伝えるべく、本書を成されたことは喜びに堪えない。僅か五〇頁の小冊子ではあるが、その中にキリシタン三百年の光榮ある歴史を、近時の進んだ諸研究を織込みつつ、しかも簡要平易に叙述されている。しかしキリシタン史を六時代に区分された区分年代に、また若干史実の解釈において問題があり、かつ誤植が極めて多いことは遺憾である。一般向き書であるだけに、それらが誤りを重ねる一因ともなりはしないかと恐れる。(昭和三十年十月、ナツメ社刊。B 6 五二頁、四〇円)

海老沢有道 共著「キリシタン史文献解題」  
助野健太郎

キリシタン研究を志す人々の手引として、重要な文献、研究書を解題したもので、欧文の部を海老沢教授が、邦文の部を助野講師が分担している。小冊子のため充分とは云い難いものがあるが、近時の複製や研究書までも収め、今後の研究者はこれによつて多くの便利を与えられるであろう。(昭和三十年十二月、基督教史学会刊。B 6 五〇頁、四〇円)

「明治文化史」3 教育・道徳編

本書は開国百年記念文化事業会の企画による「明治文化史」(全十四巻)中第三巻として編纂されたもので、本学講師橋口菊氏が執筆を分担している。

本書の特色は、一、学問的権威を失うことなく一般教養書として平易に書かれていること。一、明治時代の教育が、日本近代教育の基礎と体制をどのような特色と方向に向つて確立していつたかという点を全篇の中心として記述していること、である。したがつて本書に書かれた明治教育史は単に近代史的にその発達が辿られているのではなく、問題史的観点を中心にその発達が明にされている。たとえば、教育勅語の問題、女子教育の問題、社会教育の問題、教育行政の問題などがそれである。これは従来の教育史研究が、国家的制約によつてややもするとおちいりがちであ

つた欠陥への新たな試みとして注目されてよいであろう。  
 しかしながら、本書の編纂企画の性質上、問題のつっこみ方においていまだ十分とはいえず、特に教育問題を背後にあつて決定しているところの社会組織全般との内面的関聯によつて問題を明にすることができたら、更に本書を興味深いものにしたであらう。(昭和三十年三月、洋々社刊。A5、1000円)

## 受贈交換誌 (二九五五・四一〇〇)

- 愛知大学法経論集 一一一四 南山学会
- アカデミア 一〇〇
- 秋田大学々芸学部研究紀要 自然科学四
- 同 人文社会教育四
- 文芸と思想 一〇 福岡女子大学文学部
- 千葉大学文学部紀要 文化科学一ノ三
- 同 自然科学一ノ四
- 中央大学文学部紀要 二
- 中央大学々報 一八ノ三一五
- 英米文学 一六 立教大学英米文学研究室
- 英米文学 一 明治大学英米文学会
- 英文学思潮 二八ノ一 青山学院大学英文学会
- 英語と英文学 三 東京都立大学英文学研究会
- 福井大学々芸学部紀要 人文科学四

- 同 社会科学四
- 福岡商大論叢 六ノ一
- 福島大学々芸学部理科報告 四
- 同 論集 六
- 二つの世界 一ノ一三
- 学苑 二七四一八三 昭和女子大学光葉会
- 芸術学 三 日本大学芸術学会
- 岐阜大学研究報告 人文科学三
- 群馬大学紀要 人文科学四
- 同 自然科学二ノ三三五、四ノ一一六
- 弘前大学人文社会 六
- 広島女学院大学論集 四ノ一
- 北海道大学文学部紀要 四
- 北海学園大学経済論集 三 北海道学芸大学僻地
- 北学大僻教研教育研究紀要 二一三 教育研究所
- 北星学園女子短期大学紀要 一 熊本大学法文学会
- 法文論叢 七 法科篇
- 同 文科篇
- 法政史学 七 法政大学史学会
- 放送文化 一〇ノ四一一 日本放送協会
- 茨城大学文学部紀要 人文科学五
- ICU教育研究 一 国際基督教大学教育研究所
- 岩手大学々芸学部研究年報 七一八

人文地理 七ノ一—四 人文地理学会

人文文 一九 同志社大学人文学会

人文科学研究 八 新潟大学人文学部

人文科学研究 二 明治大学経営学部人文科学研究室

人文研究 三 神奈川大学人文学部

人文論究 五ノ五—六ノ三 関西学院大学文学会

順天堂だより 四ノ一 順天堂大学

鹿児島大学文理学部研究紀要 社会科報告二 文科報告四 史学篇一

同 一ノ二—三 解 釈 学 会

解 釈 国 語 国 文 一ノ二—三 外務省国際協力局

各国原子力情報 一—六

関西学院史学 三

関西学院社会学 一

Kwansei Gakuin University Annual Studies 3

経 済 系 二四—二五 関東学院大学

経 済 論 叢 二八ノ一—三 香川大学経済研究所

研 究 六—八 神戸大学文学会

金城学院大学論集 四—五

神戸大学教育学部研究集録 一一 人文社会篇

神戸女学院大学論集 一ノ四—二ノ二

高知女子大学紀要 二ノ二—三ノ二

国 文 三—四 お茶の水女子大学国語国文学会

国 文 学 四 愛知大学国文学研究会

国 文 学 一—四 関西大学国文学会

国会図書館収書通報 八—四一

国内出版物目録 二九ノ二—三〇ノ五 国立国会図書館

同 昭和二九年度定期刊行物

考古図録 一—三 東京大学考古学教室

駒沢大学研究紀要 一—三

コミュニケーションの諸問題 三ノ四—六 国際文化協会

甲南大学文学会論集 二

熊本女子大学学術紀要 七ノ一

久留米医学会雑誌 一七ノ九—一八ノ一〇

教育統計 三—四—三五 文部省調査局統計課

九州大学教育学部紀要 教育学三

同 教育心理学三

明治学院論叢 三七—三八ノ二

三重県立大学研究年報 人文科学二ノ一

同 自然科学二ノ一

宮城学院女子大学研究論文集 七

宮崎大学々芸学部時報 一ノ一

六浦論叢 四 関東学院六浦学会

長崎大学々学芸学部人文科学研究報告 五

同 社会科学論叢 五

名古屋大学文学部研究論集 一〇—一二

名古屋大学教育学部紀要 一

浪速大学紀要 人文社会科学三

奈良学芸大学紀要 四ノ一―三

奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報五

日本文学 五 東京女子大学日本文学研究会

日本文芸研究 三 明治大学人文科学科研究所

日本文芸研究 六ノ二―七ノ二 関西学院大学日本文学会

日本経済学会連合プレティン 六

日本女子大学紀要 四 文学部

納本週報 一―二〇 国立国会図書館

お茶の水女子大学人文科学紀要 六

岡山大学法文学術紀要 二―四

大隈研究 六 早稲田大学大隈研究室

大分大学経済論集 七ノ一

大阪大学文学部紀要 四

大阪大学南北校研究集録 人文社会科学三

大谷学報 三四ノ四―三五ノ二

立教大学文学部社会科学科研究紀要 三

立教大学英米文学会々報 二〇

立教大学神学年報 二―三

立正大学文学部論叢 三 一一八―一二五

立命館文学 二六―二七

労働パンフィック 三四九

滝谷大学論集

埼玉大学紀要 人文科学篇四

同 社会科学篇四

同 人文五一―六

同 一

同 三―四

同 六六―七〇

同 三ノ一

同 三六―四二、特九

同 一〇ノ二、五

同 七

同 一

同 一六ノ一

同 二八ノ一―二

同 四三―四五

同 社会科学一

同 人文科学五

同 教育科学五

同 五

同 七

同 一

同 七

同 一

同 一

人文科学篇四

社会科学篇四

人文五一―六

一

三―四

六六―七〇

三ノ一

三六―四二、特九

一〇ノ二、五

七

一

一六ノ一

二八ノ一―二

四三―四五

社会科学一

人文科学五

教育科学五

五

七

一

七

一

一

埼玉大学紀要

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

宗教研究  
ソフィア

自然科学五  
一四三一—一四四  
四ノ三

日本宗教学会  
上智大学出版部

山口女子短期大学研究報告 四  
日本文化 三五  
山辺道 一

天理大学宗教文化研究所  
天理大学国文学研究室

鈴峯女子短期大学研究集報 二

大正大学研究紀要 文学部・仏教学部 四〇

台湾風物

五ノ一—七

同 雜誌 杜

哲学

三一

三田哲学会

執筆者紹介

中村貞子 本学外国語外国文学科(英文学)昭和二六年卒。  
ジョージタウン大学大学院国際政治学科一九五三年卒。本学講師

天理大学々々報 一三一—一七

Tohoku Psychologica Folia XIV, 3—4

統計局研究彙報

七

内閣統計局

猪熊葉子 本学国語国文学科昭和二七年、大学院文学研究科(日本文学)昭和二九年卒。本学国文学科助手。

徳島大学々々紀要

人文科学四

原田淑人 本学考古学・東洋史学教授。  
木間瀬精三 本学西洋史学助教。

同

教育科学一

海老沢有道 本学日本史学教授。

東京大学教養学部人文科学科紀要 六 哲学II

同

七 国文学漢文学II

東京学芸大学研究報告 五一—六

東京女子大学比較文学研究所紀要 一

東南亜細亞

三ノ三—五

同 社

鳥取大学々々芸学部研究報告 二

上野図書館紀要

和歌山大学々々芸学部紀要 教育科学四

早稲田学報

九ノ二—八

山口大学文学会誌

六ノ一

聖心女子大学論叢第6集 辛 二五〇

昭和三〇年一月二三日印刷発行

編集者 海老沢有道  
印刷者 山村 栄

発行所 聖心女子大学

東京都渋谷区宮代町一

同興社印刷